

2026年3月11日

妊娠 12 週以降の人工妊娠中絶および子宮内胎児死亡による分娩における悲嘆の表出と 支援ニーズの推移

◆研究の目的と概要◆

当院では、妊娠 12 週以降に人工妊娠中絶または子宮内胎児死亡による分娩を経験された方が、入院から分娩、退院後までの経過の中で、どのようにお気持ちを表出され、どのような支援を必要とされているのかを明らかにし、今後のケアの向上につなげることを目的として研究を実施しています。

本研究は、過去の診療録を用いて行う後ろ向き(retrospective)の質的研究です。

◆対象となる患者さん◆

2023年1月1日から2025年12月31日までの間に、当院において妊娠 12 週以降の人工妊娠中絶または子宮内胎児死亡による分娩のため入院された方を対象とします。

◆研究に使用される情報・試料◆

この研究では、診療録に記載されている内容を使用させていただきます。具体的には、年齢や妊娠週数、初産・経産、これまでの妊娠の経過、今回の妊娠が終結に至った理由などの基本的な医療情報に加え、入院中の看護記録に記載されたお気持ちの変化やお話しされた内容、必要とされていた支援に関する記録を参考にさせていただきます。

また、精神科への通院歴や服薬の有無、ご家族など支えてくださる方の状況、母性専門看護師や心理士が関わった記録がある場合には、その内容や時期についても確認させていただきます。

なお、お名前や住所など、個人を特定できる情報を研究に使用することはありません。

◆研究方法◆

本研究では、診療録に記載されている内容をもとに、診断や説明を受けられた時から入院、分娩、その後退院に至るまで、そして退院後の経過について、時間の流れに沿って整理していきます。

それぞれの時期において、どのようなお気持ちが表れていたのか、どのような支えや配慮を必要とされていたのかを丁寧に読み取り、まとめます。そして、時間の経過とともにお気持ちや必要とされる支援がどのように変化していくのか、その特徴を明らかにしていきます。

* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。

* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

産婦人科 研究責任者 中正 成美

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明